



Data

監督・脚本: イ・ヘジュン、キム・ビョンソ

出演: イ・ビョンホン/ハ・ジョンウ/マ・ドンソク/チョン・ヘジン/ベ・スジ

👁️👁️ みどころ

日本の象徴が富士山なら、白頭山は“朝鮮民族の聖なる山”。そして、富士山が活火山なら、白頭山も活火山だし、1000年に1度の大噴火が近いのも同じだ。しかし今・・・。

最悪の事態回避の方策は、地下坑道で核爆発を起こし、マグマ溜まりの圧力を下げること。1人の学者のそんな理論が大統領の独断で決行されたが、そんな“ミッション・インポッシブル”に挑む男は誰？北の二重スパイとのパディぶりは如何に？その家族は？さらに、米韓同盟の中で米国は？中国は？

あの味、この味をてんこ盛りにした韓国映画をしっかりと楽しみたい。



■□■富士山が日本の象徴なら白頭山は？もし大噴火したら？■□■

富士山が日本の象徴なら、白頭山は北朝鮮の象徴。日本の天皇陛下に富士山がお似合いなら、白頭山は金日成、金正日、金正恩と3代続く金王朝にお似合い？すると、その時の首領様の姿は“ナポレオンのアルプス越え”を彷彿させる、白馬に跨った輝かしいものと相場が決まっている。そんな白頭山は巨大噴火を繰り返してきた活火山であるうえ、1000年に1度は大噴火するらしい。そうすると、前回の噴火が946年だから、次回は21世紀の今頃？

日本では、9世紀以来、1000年ぶりの“大地変動の時代”が始まっている。また、2035年±5年には南海トラフ大地震や首都直下型地震が想定されている。そんな時代状況下、大量のマグマを地下に蓄えている標高3776.12mの富士山が噴火スタンバイ状態なら、北朝鮮と中国の国境にある標高2,744mの“朝鮮民族の聖なる山”白頭山もそれは同じだ。そんな白頭山が、ある日、突然大噴火したら？

私が直近にスクリーン上で観たそんな風景は、『ポンペイ』（14年）『シネマ35』未

掲載)と『ボルケーノ・パーク〜VOLCANO PARK〜(天火/Skyfire)』(19年)、『シネマ48』(222頁)だが、今スクリーン上で発生している白頭山大噴火は如何に？

■□■韓国大統領府の対応は？決断した極秘作戦は？■□■

大統領の任期が5年1期に限定されている韓国では、就任直後は次々と新政策が遂行されるが、残任期が短くなると、いわゆるレームダック状態となり、大統領府の機能が麻痺する傾向にある。しかし、現実はその中でも、作り物の映画ではせめて実行力ある魅力的な大統領の姿を見たいもの。そんな願いもあって、本作に見る大統領(チェ・グァンイル)の決断力がお見事なら、その秘蔵っ子である民政部首席のチョン・ユギョン(チョン・ヘジン)の行動力もお見事。直ちにユギョンは3年前から白頭山の噴火の研究をしてきた米プリンストン大学の地質学教授カン・ボンネ(マ・ドンソク)に協力を要請。それに対してボンネは、地下坑道で人工的な爆発を起こしてマグマ溜まりの圧力を下げれば、4次爆発で予想される最悪の事態を避けられる、という独自の研究理論を発表。しかし、その成功率は目下のところ3.48%であるうえ、その爆発には核兵器の使用が不可欠というから、アレレ。そんな案をホントに採用していいの？

そんな状況下、自身の大統領選出馬当時の支持率と現在の支持率を比較しながら決断を下す大統領の姿は興味深い。そんな姿は、去る8月22日の横浜市長選挙の大敗後、急速に支持率を下げ、自民党の総裁選挙に向けて強いリーダー像を見せたい菅義偉総理も大いに参考になるはずだから、本作は必見！自案の採用を聞いたボンネ教授は、腐った韓国を離れてアメリカ市民になろうとする気持ちに“待った”をかけ、ミッションの始動と展開を見守りながら、地下坑道のどこで核爆発させれば最も効率よくマグマ溜まりの圧力を下げることができるのかを、シミュレーションすることによって、ミッション成功の確率を高める作業を開始することに。

■□■韓国の主役は？北朝鮮の主役は？■□■

そんな、とんでもない任務を引き受け、完璧に遂行する軍人やスパイは、ハリウッド映画ならトム・クルーズが最適だが、本作で大統領が抜擢したのは除隊直前の爆発物処理班のチョ・インチャン大尉(ハ・ジョンウ)。インチャンたちの決死のミッションは次の5段階から成るものだ。①火山灰の嵐の中、空路にて北朝鮮に潜入せよ！、②北朝鮮武力省のワーカーリ・ジュンピョンに接触せよ！、③北朝鮮の隠された核兵器を奪取せよ！、④白頭山の地盤を破壊し、最後の噴火を阻止せよ！、⑤必ず生きて帰還せよ！。

本隊のアルファチームは軍事境界線を飛行中、無残にも全員死亡！そのため、本来アルファチームをサポートする技術部門に過ぎないデルタチームが、その後のミッションを担うことになったうえ、インチャンが指揮官に任命されたから大変。インチャンにそんな能力があるの？インチャンのキャラは、冒頭に見る妻チェ・ジョン(ペ・スジ)とのいちゃつきぶり(?)を見ても明白で、いかにも今風の韓国軍人だ。それに対して、北京在住北朝鮮書記官として偽装作中に、北への二重スパイとして逮捕され、今は北朝鮮に収監さ

れているリ・ジュンピョン（イ・ビョンホン）は筋金入りの殺しのプロだ。大活躍する俳優イ・ビョンホンはこれまで多くの映画で幅広い役割を演じてきたが、さすがに北朝鮮のスパイ役は本作がはじめて。直近の『KCIA 南山の部長たち』（20年）『シネマ4 8』（226頁）で大統領に次ぐ NO.2 の権限を持ちながら大統領暗殺を執行した彼が、本作ではいかなる活躍を？

冒頭、髭ボーボーの姿で登場したジュンピョンは、インチャンたちに救出され、手錠を掛けられた状態でも、さすが北のスパイ！さすが殺しのプロ！という能力を見せつけるが、彼の真の狙いは一体何？また、こんな男にも妻や子供がいるの？

■□■北朝鮮の核弾頭を目の前に！彼らの任務の達成は？■□■

世界ではじめて核戦争の危機が現実味を帯びたのは、1962～3年のキューバ危機。そこでは、若きケネディ大統領（米国）と老練なフルシチョフ首相（ソ連）とのギリギリの接衝の結果、キューバに設置されたソ連製の大陸間弾道弾（ミサイル）が撤去された。しかし、その後も大国間の核開発競争は収まらないばかりか、北朝鮮のような弱小国（？）ですら短距離、中距離のミサイルを持つに至ったから、日本がそれを野放しにしてきた責任は重い。それはともかく、本作ではじめて観ることができた、北朝鮮が保有している大量のミサイルの威容は？

もちろん、北朝鮮の核兵器貯蔵施設の所在は極秘。そんなところに入ることができたのは、ひとえに二重スパイ（？）ジュンピョンの情報と並外れた行動力のおかげだが、そこでの南北合同チームの任務は、ミサイルを解体し、ウランウムだけを確保し、それを白頭山の地下坑道まで運ぶこと。常識的に考えれば、それは“ミッション・インポッシブル”だが、映画なら、そして娯楽色満載の韓国映画なら、それもオーケーのはずだ。ディザスター・ムービーとしての本作のポイントは、導入部で提示されたとおり、4次爆発までのタイムリミットが75時間という状況下、インチャンたちに与えられた5つのミッションを如何に成功させるかということ。もちろん、それを約2時間の上映時間内で成功させなければ映画は成り立たないわけだが、インチャンがジョンを救出するだけでも大変なのに、北朝鮮から核兵器を奪取するなど、一体どうやって……。

こんな映画が北朝鮮で公開されたら、首領様こと金正恩総書記は激怒するはずだから、韓国国民は要配慮かもしれないが、能天気な日本人はそれを無視してその痛快さをしっかり楽しみたい。

■□■核の使用は大統領だけで可能？米韓同盟は？中国は？■□■

日本は平和憲法を大前提とした上、核兵器を「もたない、つくらない、もちこまない」の“非核三原則”が貫かれてきた。それは一方では素晴らしいことだが、他方では理想に走り、現実に対応できていないという欠点がある。また、日本の平和と安全は「日米安保条約」によって守られているが、朝鮮戦争を経験し、南北分断の悲劇に至った韓国でも、「米韓同盟」が命綱。中国をバックにした北朝鮮と北緯38度線を境に対峙している韓国が日

本以上に北朝鮮との戦争の危険に直面しているのは当然だ。近時は、文在寅大統領との間の日韓関係にさまざまな問題が発生しているが、それは、米韓の関係でも同じ。しかして今、大噴火が起こっている白頭山の第4次噴火を最小限に収めるためとはいえ、その地下坑道で人工的に核爆発させるというプロジェクトを韓国が単独で決行しているの？大統領の決断力は素晴らしいが、白頭山の地下とはいえ、中国との国境にある白頭山で核兵器を使用することを米国は許可するの？大統領がそれを黙って強行すれば、明確な米韓同盟違反になるのでは？

さらに、ジュンピョンは中国との関係では“北朝鮮の二重スパイ”とされている男だから、この男が下手に動けば中国はどう対処するの？そんな国際政治の枠組みを本作はどう考えるの？韓国が核を使用するには、米国大統領の同意が不可欠なはず。さらに、もし、中国との国境にある白頭山で韓国が核爆発させるという情報を中国が入手すれば、中国の人民解放軍は直ちに出兵するはずだ。

米国のバイデン大統領は、2021年8月末までにアフガニスタンから撤退するという“公約”を実行したが、そのために首都カブールで起きた混乱と悲劇は目を覆うばかり。ここでは、国際問題の複雑さが如実に表れているが、白頭山大噴火でも、南北対立、米韓同盟、米中対立を軸とした国際問題の複雑さが浮かび上がってくる。本作の鑑賞については、エンタメ色だけでなく、そんなシリアス色もじっくり味わいたい！

■□■この味あの味をてんこ盛りサービス！さすか韓国映画！■□■

社会問題に深く切り込む意欲も能力も弱くなった今の邦画界では、くだらないコミックモノやピュアな純愛モノ、そして分かりやすいTVドラマの劇場版にウエイトが移っている。しかし、対日感情の複雑さを持ちつつ、中国と米国の間で揺れ動く韓国では、5年ごとの大統領選挙の不安定さもあって、映画界は面白い。そのネタ作りは幅広いうえ、演出力も演技力も達者だから、本作のようなディザスター・ムービーでも、単に大噴火する白頭山からの脱出劇だけでなく、さまざまな味付けをし、サービス精神満点の作品に仕上げているから、それに注目！

本作は、前述のように、北朝鮮が保有する核の奪取とその使用を巡って、南北間の緊張はもとより、米韓同盟の在り方や中国の動き方まで、今日的な国際問題のテーマが興味深く描かれるから、それに注目！それと同時に、韓国映画は『レッド・ファミリー』（13年）（『シネマ33』227頁）や『エクストリーム・ジョブ』（19年）（『シネマ46』239頁）を見てもわかるとおり、家族愛や仲間愛の描き方が強いのも大きな特徴だ。

したがって、出会った時は互いに疑心暗鬼で相手の裏をかくことばかり狙っていたインチャンとジュンピョンだったが、否応なくさまざまな困難を共有する中、互いの能力と見識を見抜き合い、互いにリスペクトするようになっていく姿は興味深い。それでなくても、あの味、この味がてんこ盛りの本作には、出産を間近に控えたインチャンとジョンの夫婦愛が真正面からコミカルかつ感動的に描かれるから、それに注目！さらに、①『スキャン

ダル』(03年)、『シネマ4』192頁)、②『ユア・マイ・サンシャイン』(05年)、『シネマ11』257頁)、③『シークレット・サンシャイン』(07年)、『シネマ19』66頁)、④『ハウスメイド』(10年)、『シネマ27』67頁)、⑤『藁にもすがる獣たち』(20年)、『シネマ48』242頁)等の名作に次々と出演してきた、私の大好きな女優チョン・ドヨンが廃人同様の姿でほんの少しだけ登場し、ボンネとの夫婦愛やボンネの一人娘に対する愛まで描かれるから、それにも注目!

さらにその延長として、5つのミッションを見事に成功させた後の本作ラストに見る、インチャン一家のほほえましい家族風景にも注目!

2021(令和3)年9月1日記